

日本地球電気磁気学会会報 (第30号)

1967年12月

日本地球電気磁気学会

事務所：東京都文京区弥生2丁目11の6

東京大学理学部地球物理学教室内

電話 03-812-2111 内線 6476

振替 東京 4860

第42回総会並びに講演会後記

第42回日本地球電気磁気学会総会並びに講演会は、本学会20周年を記念し始めて大阪市立大学において10月29日から11月1日迄の4日間予定通り開催されました。菊香る秋の日々に新築の大講義室で竹屋芳夫大会委員長始め大阪市立大学工学部の皆様のお世話で快よく日々を送らして頂きました。

本学会が昭和22年に発会してから今年で20年を過ぎ今回の学会はこれを記念するものとして記念特別講演が行なわれました。10月30日午後の記念講演ではこの20年をふりかえり更に新しい将来への本学会の発展について4人の会員の方々にお話をして頂きました。即ち

東大地震研究所 力武常次氏が「地球内部の電磁気学」

東大工学部 前田憲一氏が「地球大気 of 電磁気学」

名大理学部 関戸彌太郎氏が「外圏大気 of 電磁気学」

と夫々願して学問分野に分けて地球電気磁気学界の進展について話をして下さいました。そして最後に

長谷川名誉委員長が「20年の思い出」と題して学会の発足当時のお話からその後20年の歩みを顧みての興味深いお話をして下さいました。

今回の学会では130篇をこえる一般講演のお申込みがあり、更にこれらの講演をより意義ある事とするために学会予稿の原稿を皆様からお送り頂きこれを直接複写印刷した予稿等を発行致しました。予稿を提出されなかった方は講演会プログラムから削除すると言うことに致しましたがこの様な方は数名に上り予稿集が予定通り作られました。これによって皆様の講演がより有

意義なものとなった事と思えます。今後の学会においてもこの方法が続けられ更に意味のある予稿集として育てゆく事を強く希望しております。

10月30日午後3時半より第42回総会が開催され委員長の指名により柳原一夫運営委員が議長となり先ず竹屋大会委員長の御挨拶がありました。次に経過報告が庶務、会計、会誌、学会連合、講演会担当の各運営委員から行なわれました。特に会誌問題に関するアンケートの結果についての報告では本学会での研究分野の増大、他の学会誌、研究誌等との関係についての皆様の御意見に基いて今後学会誌を運用してゆく事が報告されました。又学会連合関係では固体地球に関連ある、火山、地震、測地、地球電気磁気の4学会の間で(イ)春の学会を出来るだけ同じ時期に東京で開らく。(ロ)4学会の中2学会の会員であるものは他の2学会でも研究報告が出来る様にする。この2点で意見がまとまりつつある事が報告され皆様の御賛同を得ました。

続いて関戸委員長より田中館賞が

第43号 大家寛氏「プラズマ中の境界恒理論と宇宙プラズマ測定機器の研究」に授与され審査経過の報告がありました。

次に長谷川記念杯の贈呈に移り

前田憲一会員に日本地球電気磁気学界に尽された功績をたたえ長谷川記念杯並びに賞状が贈られました。

更に関戸委員長は今回の学会が20周年記念の学会として有意義なものであり今後の発展の新しいStartとなった事についてお話がありました。

又長谷川名誉委員長から長谷川基金の増額のお申出であった事について感謝の意を表された后、今秋のIUGGの総会で永田武会員がIAGAのPresidentに選出された事についてお祝いの言葉をのべられました。

これにこたえて永田会員は今後の国際学界の状況について、1969~70年にJ.A.S.Y. (International Active Sun Year)が行なわれる形勢にある事、来年5月東京で開かれるCOSPAR総会の際にSolar Flareに関するSymposium (責任者永田会員) Small Rocketによる観測Symposium (責任者前田会員)が開かれる事、又1969年にはIAGAのScientific General AssemblyがSpainで行なわれる事等が報告された。

次の議題として次回総会並びに講演会が東大地電研究所のお世話で開催される事が決定しました。

又、宇宙開発の一元化問題について地球電気磁気学会の若手グループからのアピールについて説明があり今後運営委員会等にはがって善処する事となりました。最後に大林評議員からこの講演会及び総会の一切の御世話をし

て下さった竹尾大会委員長並びに大阪市立大学工学部の皆様に感謝の辞が述べられ総会を閉じました。

この後多数の会員は工学部会議室において開催された懇親会に出席し、大会委員長並びに小塩会員の御努力により豪華な宴会が行なわれ時の経つのも忘れて歓談致しました。

以上の様な経過で4日間の大会を大変円滑に充実して終る事が出来ました事は、一重に大会をお世話下さった竹屋大会委員長始め大阪市立大学の皆様方の並々ならぬ御努力の賜物でありこの紙面をかりて厚くお礼申上げる次第であります。

新入会員 (42年10月30日まで承認の分)

馬場 清 英	名古屋工業大電子工学科
結川 勝	東京電機大電気工学科
西村 浩 之	新潟大理学部
木村 正 明	中部工業大超高層研究所
小塩 高 文	大阪市大原子力調査室

会誌配布

J. G. G. Vol. 19 No. 4 は昭和43年1月末に発行される予定です。

第43回総会ならびに講演会のお知らせ

昭和43年度春季総会・講演会の開催日程は下記のとおり予定されております。

総会・講演会開催日時：昭和43年5月25日(土)～28日(火)

第1会場 東京大学農学部

第2会場 東京大学地震研究所

製品展示会場 第1会場を予定

述
大
む
た
様
第

文部省主催ドキュメンテーション講習会のお知らせ

文部省学術局より第7回ドキュメンテーション講習会の案内がありました。
(記)

東京会場 43年1月30日～2月2日 於 東京大学付属図書館
大阪会場 43年2月6日～2月9日 於 大阪大学松下会館

テーマ : 学術情報流過程における学術雑誌の諸問題
受講対象者 : 大学・学会の学術雑誌編集関係者
大学・研究所の研究者、文献担当者、図書館職員など
詳細は学会事務所まで

第11回宇宙科学技術講演会のお知らせ

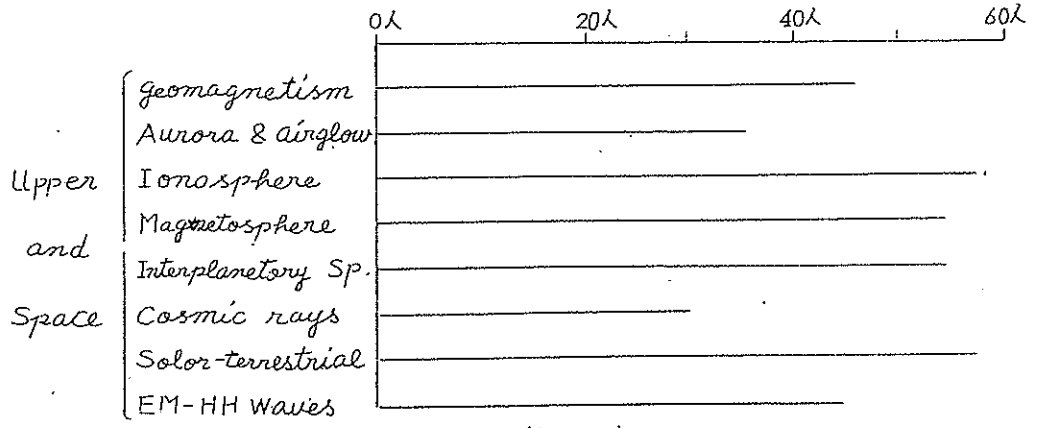
開催期日 : 昭和43年1月26、27日
会 場 : 東京大学宇宙航空研究所

プログラムの詳細については当学会事務所(東京812-2111 内線6476)
或いは日本航空学会(東京591-3261)へ直接お問合せ下さい。

JGGに関するアンケートの結果

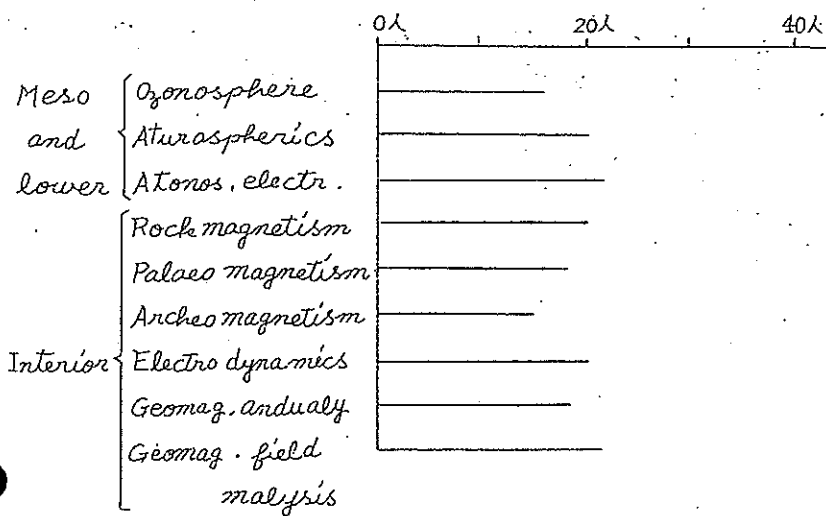
回答数 127 (○印のみ74; 自筆コメントつき50・集計後受理3)
(A) 学会会員のみの回答

① 興味をもつ分野



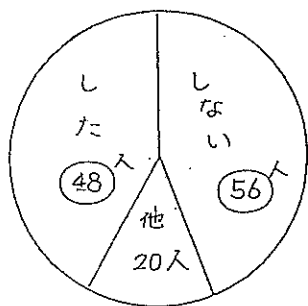
(4)

ま



② JGGへの投稿

③ 投稿予定



⑤6人 意見あり

- まだ至らない..... 31人
- 他の方がよい..... 19人
- その他..... 6人

範囲外: 金

⑤人 意見なし

- サーキュレーションわるい..... 3人
- 会誌名がわるい..... 1人
- 印刷・出版がおそい..... 0人
- 編集方法がわるい..... 0人
- その他..... 1人

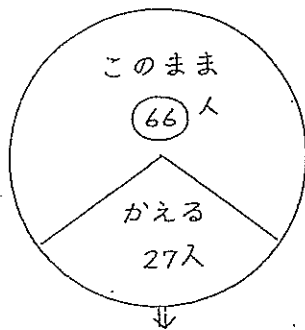
内部 雑誌的すぎる

④ JGGについて

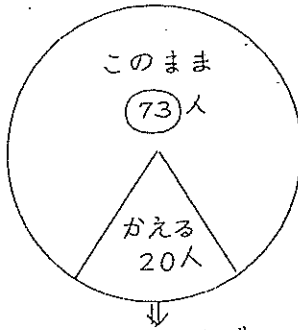
4.1. 会誌名

4.2. 範囲

4.3. 編集委員

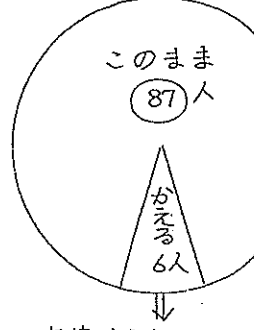


- J.G. Aer. Spae Phys
- J. Earth Env. and Sp. Res.



- JGRぐらいに広げる。
- 地球内電磁気は別にする。

(5)



- 直接せんきよ
- 学会, SPARK, 天文, ズマからせんきよまで

- RISRTと合併してきめる。
- *Geolectricity* が古い
- *J.G.G. and Aeronomy*
- *Space & Terrestrial Sciences*
- *Jap. J. Space Physics*
- *Jap. J. Solid Earth Physics*
- *Cosmic radiation*とする。
- *Plasma*や*tectonophysics*も入れる。
- *Solar & Planetary Physics Cosmic dust, meteor etc.*
- 地球内部構造も入れる。
- *Atomic & molecular Processes*
- 運営委員会がいよいよする。

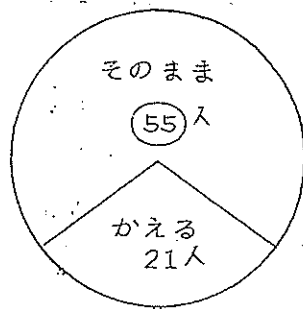
4.4. 内容

1. 一時的にかたよってよい 20人
2. かたよらない方がよい 27人 (投稿代を同じにする)
3. Upper atmosphere と Solid earth (47)人
とに分ける
4. その他 6人

- (JGG+RISRT) → new upper atmosphere Journal 3人
- (JGG+JJG+JPE) → new Solid Earth journal 3人
- (RISRT) → upper atmosphere journal 2人
- (JGG) → Solid Earth journal -

(B) Upper Atmos. & Space Physics に興味ある人の回答

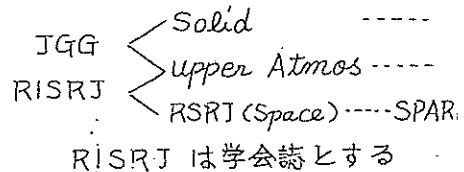
5.1. RISRT の誌名



- J. Space Research
- J. Upper Atmosphere & Space Res.
- Jap. J. Space Phys.
- Ionos. & Space Research
- Rep. Upper Atmos. Space Res. Jap.
- Rep. をとる 3人

5.2. RISRT と JGG との関係

1. 両方とも論文集 13人
2. JGGは論文集 20人
RISRTはセンター誌
3. 合併して新しい学会誌 15人
4. 合併するが再び分けて Upper atmos. & Space 関係と Solid earth 関係とする (52)
5. その他



金な

誌的すき

委員

まま
37人

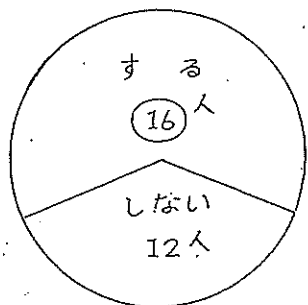
かえる
6人

さよ

ARK 天
んきよ

(C) Solid Earth に興味ある人の回答

6.1. JJG, JPEへの投稿



6.2. JJG, JPEとJGGとの関

1. 今まで通り
2. Solid earth を一本化
3. その他

6.3. どのようにあるべきか 雑誌の細分化はよくない。
総合誌がよい。

(D) すべての人の回答

- 7.1. 従来通り 13人 (Space 誌のみ自由に)
- 7.2. 投稿自由 32人 (領域を重ねるように)
- 7.3. JGRのように少数の総合誌 80人
- 7.4. その他 3人

- 地球電気磁気学会を変質
SolidとUpper & Spa
とする。
- Space を含む新しい誌
をつくる。